

第9回旧RD最終処分場問題連絡協議会の開催結果

■日 時 平成26年8月29日（金）19:00～21:15

■場 所 栗東市コミュニティセンター治田東

■質疑概要

1. 平成26年度第1回モニタリング結果について

◇No.1揚水井戸で砒素が上昇したのに、それ以外の物質は上昇していないのは何故か。なぜ、砒素以外の物質（例えば鉛）は上昇していないのか。

→砒素以外に、マンガンも上昇しています。廃棄物土から重金属が溶出する要因にはpHと酸化還元電位があるが、No.1揚水井戸のpHは7.2、中性であり、鉛・カドミウムは溶出しない。砒素、マンガン、鉄が検出されたのは酸化還元電位が低く還元的雰囲気であるため溶出したと推定されますと回答しました。

◇それならば、浸透水の状況（pH、酸化還元電位）が変われば、今は溶出していない物質も溶出するのではないか。

→状況については常時モニタリングで把握している。状況の変化により溶出する重金属は、年4回の調査でモニタリングしている。今溶出している砒素のような重金属が溶出しない状況（準好氣的な状況）にするべく対策工事を行っていますと回答しました。

◇洗い出し効果があったとしても、溶出しない重金属等は廃棄物土層に残る。今後も無くなっていくとは考えにくい。

→有害物調査検討委員会でかなり厳しいpHの条件下で重金属の溶出試験を行い、当時お示した結果のとおりで、現状のpH程度では溶出が進行することは無いと考えています。念のため、鉛・カドミウムはモニタリングしているが、現状ではほとんど検出されていませんと回答しました。

◇A3井戸とNo.1揚水井戸のグラフが重複してわかりにくい。

→分かりやすくするよう検討しますと回答しました。

2. 鉛直遮水壁の施工について

◇TRDの工事見学会は複数回開催して欲しい。

→事前の試掘が終わった段階で一回、TRD施工中に一回実施します。

ただし、複数回は、北尾団地に近接することから難しいと考えていますと回答しました。

◇鉛直遮水壁には地層を構成する砂や粘土が入るのか。それらのうち重い粒子は底に沈むのではないか。

→地層を構成する成分はソイルセメント内に入ります。また、ベントナイトを添加するので、重い粒子が沈降することはありませんと回答しました。

3. 底面遮水工における事前調査ボーリングの実施について

◇底面粘土層破壊箇所のうち、D～E工区部分の事前ボーリング調査は、No. 9～No. 11の東側3カ所のみである。南側はやらなくてもよいのか。

→南側は掘削深度が比較的浅いので、仮に端部のKc3粘土層厚が薄くて、再度、掘削することとなっても、対応は容易であると考えていますと回答しました。

◇コンクリートを構成する成分に粘土は使わないと思うのだが。

→コンクリートはそうだが、ソイルセメントでは地層の構成成分が入ることを前提にしていますと回答しました。

4. その他

◇二次対策工事の有害物掘削で、どのような廃棄物がどの程度の割合で混入していたか把握し、記録に残しておくことは対策工事の評価の上で必要である。これは一次対策工事の搬出廃棄物土でも総括すべきである。

→どのように把握し、評価できるか、検討しますと回答しました。